

工学部長と学生との懇談会 報告

日 時 平成24年6月28日(木) 16:10~17:40

場 所 工学部第一会議室

出席者 学生38名

千葉大学理事(教育担当)長澤成次

工学部長 北村彰英、副工学部長 伊藤智義

(挨拶)

北村工学部長:工学部としてカリキュラムの内容に、自信をもっています。しかし、更に良いものにしていくために、君達から見て、こうして欲しいとか実際に授業を受けて思う意見を伺いたい。施設・設備関係、支援体制としては就職・学生生活、それ以外の教育内容など、ざっくばらんに話していただきたい。

(施設設備関係について)

建築学科4年:教室、研究室の冷暖房について

4年生は夜遅くまで研究で部屋にいる。節電のためエアコンが使えない時がある。網戸や二重ガラスを取り付けていただきたい。

北村工学部長:一つは省エネ、もう一つは節電が含まれている。特に建築学科では「製図室みたいな一つの部屋にまとまって研究しなさい。」と言われていると思う。暑くて窓を開けても網戸がないのでは困る。「網戸を付けて欲しい。」と先生に言って要求してください。

網戸に関してはここ3年くらい毎年、大学の方で補助してくれている。窓のサイズの関係で工学部では独自に作ることもある。

こちらからの要望です。

今年は特に電気代の節約が言われている。ご存知のように東京電力が値上げをしました。工学部の年間電気代は8500万円、値上げ分が1500万円になる。値上げは予定に入っていなかった。どこかで節約しなければならない。教育・研究に支障が出ることはしたくない。エアコンを使わないため授業能率が低下するということはしたくない。人がいないのにエアコンが入っていたり、古い冷蔵庫がさらに電気を食っていないか。階段は危ないので電灯をつけるが、廊下については消す。こんな様なことで節電を図っていききたい。今年は夏だけでなく1年中極力節電を図っていききたい。学科の先生方にもお願いしていますし、みんなにも協力して欲しい。二重ガラスの件は予算的にできないと思う。

都市環境システム学科3年:新しい図書館で一つ気になっていることがある。ガラス張

りのデザインで熱効率が良くないのではと思う。ソフト面では良いと思うが、ハード面で何か工夫しているのであれば教えて欲しい。

北村工学部長：みんな気になりますね。今日は図書館の課長がいらっしやっているので説明いただきます。

附属図書館コンテンツ課長：熱効率を考慮して最新の技術で建てられていると思う。

ガラス張りによって、勉強したりディスカッションしている学生の姿がよく見えるので、そのことで刺激を受けて学習意欲があがるという考えで設計されていることをご理解いただきたい。

北村工学部長：私も同じことを思い、建物を建てた施設部に聞きました。熱効率の面で断熱やUVガラス等を使っている。そんなに電気代はかかっていないということです。技術的には最新の技術なので大丈夫だと思う。

工学部の学生は図書館をあまり使っていない。こんないい環境の図書館はない。そばにあり、最新鋭の図書館の中でディスカッションをして、セッションを受け、資料を調べる。1年生が一番使う頻度が高い。特に新しいことを勉強する時に「SA」の先輩が勉強の仕方を教えてくれる。是非利用して欲しい。ちなみに「SA」は理学部の大学院生ですが、来年度からは工学研究科の大学院生も「SA」に参加します。

デザイン学科2年：課題、自主製作の作品等製作中のものを保管する場所が欲しい。

北村工学部長：ロッカールームですね。

2号棟の共通スペースに一部作品が置いてある。そういう意味では建築学科も同じだと思う。作品の保管をどうするか。こちらからも先生に言うが、皆さんからも学科の先生方にスペースの確保をお願いしてみてください。演習室の利用とか何か工夫できると思う。

建築学科4年：A2プリンターが欲しい。

課題を提出するのにメディア基盤センターで「A0」に出力をして4つに分割する方法をとってもう一度切ったりして、使い勝手が悪い。ポイントで規制されると無駄使いになると思う。

デザイン学科3年：課金制をとっても「A3」プリンターを設置して欲しい。

北村工学部長：プリンターの購入の要望は学科によっていろいろ違うと思う。

おそらく機械工学科では要らないのでは。機械工学科では別のものを要求したいのでは。

したがって、工学部全体として買うより学科ごと買った方がいい。工学部では学科で教育に必要なものを買ってもらうための予算を学科長に最初に分配しています。そのような予算で買ってもらったらいいのは。もしかしたら配った予算内で、買えないかもしれないが。私の方から学科長に聞いてみます。

(卒研配属について)

電気電子工学科 4年：電気電子工学科では4年生で卒研配属ですが、それを3年の後期からできないか。研究室の設備、他大学の大学院との差がわかるので研究室を1、2年生から見せて欲しい。研究発表以外の情報も欲しい。完全でなくとも3年後期で仮配属してもらい、研究室の雰囲気を知りたい。

北村工学部長：多くの学科は3年の後期から研究室の配属をしている。電気電子、機械工学科は4年で配属している。学科によって理由があると思う。1年生で入ってきた時、上級生になった時にどのような実験装置を使うのか、早く見せて知ることが重要だと思う。全ての学科に導入ゼミがあり、学科で内容を工夫している。

伊藤（智）副工学部長：電気電子工学科の場合、一つは3年生の授業をきっちりとして欲しい。3年後期に配属してしまうと雰囲気は味わえるが、4年後期の卒業研究と修士2年の研究が重なり、かなり研究室の密度が濃い。雰囲気は味わえるが実質は3年後期で配属すると配属が変えられない。良し悪しだと思う。私も意見があれば参考にしたいので、どなたか発言をしていただきたい。

北村工学部長：共生応用化学科は3年後期ですね。

伊藤（智）副工学部長：4年生はどうですか。どんな感じですか。

共生応用化学科 4年：3年後期は各研究室によって違うが、英語の論文を和訳して発表していた。

共生応用化学科 4年：私は有機合成の研究室なので、研究に対する考え方の授業を受けた。研究室の雰囲気を味わうというよりは研究室に入る前の導入的などころを教わって、先輩方と話す機会を与えていただいて、4月から研究室に配属になった。

伊藤（智）副工学部長：卒直に、3年後期に入るのと4年の配属の差はどうですか。

共生応用化学科 4年：実際に3年後期に教わったから、今、こういうふうの実験してみようという考えができ、それを先生に確認している。自分で考えることができるようになった。

伊藤（智）副工学部長：参考にしたいと思います。

電気電子工学科では卒研配属を10年前までは学生同士の話し合いで決めていた。やはり3年間真面目にやってきた学生とそうでない学生が同じ土俵で行なうのは如何なものかと思う。半分はGPAで成績順に、残りの半分は自由枠で今までどおり、学生間の話し合いで決めている方式をとっていますので、直ちに3年後期からというのは難しい。

電気電子工学科 4年：完全な配属でなくても一週間でもいいから、研究室の雰囲気を味

わいたい。

北村工学部長：配属に関してはどこの大学でも試行錯誤で完全な正解はない。

いろんな先生方の意見、学生達の意見を聞きながら今は優先枠を持たせるような形にしているところが多い。やる気のある人をひき上げ、しかしやる気のない人を放り出すようなことはしない仕組みを作っている。全員の満足は得られないと思う。

(交換留学について)

機械工学科 2年：交換留学の際、専門科目の単位の振替について

特に3年次の単位は卒業研究するために不可欠の単位があるため、実験が取れないと「進級要件」が取れないので留年となってしまう。

北村工学部長：協定校へ留学する場合には授業のカatalogを持ち帰り、千葉大学のものと授業、単位等をチェックし、中身が一致しているか見る。確かに実験、実習が取れないと留年になる。実験、卒業研究等は1年間を通して行う授業であるため(セメスタ制になっていない)問題はある。特に4年生の前半に留学するのは難しくなっている。

伊藤(智)副工学部長：特に機械工学科は厳しい。これをとらないとあがれない。

カリキュラムはこれをとってからでないといけないというのがある。

北村工学部長：工学部の場合は積み上げ式の教育を行なっている。通期の実験に関しては一部を今年受講し、来年に残りをやる人もいる。運営を柔軟に行なっている学科もある。

君達から学科の先生に熱意を伝え、留学する前にどんな授業、科目を受けるか、計画をしっかりと示して欲しい。協定校以外でも単位を認めることもある。

(非常勤講師の選考について)

建築学科 4年：非常勤講師の授業において指導力に問題があると思われる方がおられる。

非常勤講師の先生はどのように選考しているのですか。

北村工学部長：基本的には学科の先生が知っている人を推薦する。どういう研究(教育)業績があり、どのような専門か。他の大学で非常勤講師(授業)をやっているかなどを審査してお願いしている。

君達の感想などは授業評価アンケートで答えてください。

(カリキュラムについて)

電気電子工学科 4年：1年から物理で微分方程式、電磁気でベクトル解析等の知識を用いる部分があるのにそれらの授業は2年になってからあるのはどのような意図でしているのですか。

伊藤(智)副工学部長：カリキュラムの構成上少しずつマイナーチェンジはしている。

「力学」「電磁気」では必ずベクトル解析を学ばなければならないが、その前に数学が全部終わっていた方が理想的ではあります。1年生は全部数学で埋めて、2年生から物理が入る方が学問的には正しい筋道であるとは思いますが、電気電子工学科に入った学生が「自分が何の学科に入ったのか」ということも議論にあり、並行して実施しているところ。電磁気担当の教員は、数学ではまだ習っていない部分を教えながら授業を行う。私は2年で応用数学を担当しているが、応用数学の授業は、つまみ食いの様な状況で授業を行っている状況です。どう積上げていくか悩ましいところである。数学をきっちりやった後、物理をきっちりできれば一番いいが、それだと学校に来るのが辛くなるのではないかとということもあり、バランスを考え2年生までは基礎勉強としてトータルでうまくいけばと考えている。学科の中のカリキュラム委員会で検討等している。学部の1、2年生のガイダンス時に繰り返して意図を伝えることとしたい。4年生になればわかると思うが。

北村工学部長：一般的な卒業要件は124単位になっている。工学部の場合は124～138単位までになっている。その中でどういった教育をしていくかを考えている。「教養教育」をどのくらい充実させるかが課題である。「教養教育」は社会に出るとその必要性がわかる。同じことが専門基礎科目にも言える。千葉大学工学部では専門基礎科目にかなり時間を使っている。基礎がしっかりした学生を育てたい。本当は「教養教育」を3、4年で受けると良いと思う。

北村工学部長：就職支援体制、学生生活について、苦しい時の学生相談とか何か発言ありますか。学生生活については、今、厚生施設を改築しているので春には便利になると思う。

学生部長：就職に関する問題提起について

就職のエントリーが去年の10月から3年生の12月になって以前より2ヶ月遅くなった。時期が短くなったことによる混乱があったという報道があったことは、ご存じのことと思う。日本の大学の8割が私大であり、その私立大学は文系の学生が多く、スケジュールは私立大学の文系の学生中心に回っているところがある。国立大学は理系の学生が多く、卒業研究は4年生の夏休み以降に本格的になる。私立とは異なる点を考慮願いたい旨申し上げているところ。文部科学省へ学生の声を届けることができるので何か意見があれば発言願いたい。

北村工学部長：新聞を見ると文系重視の情報は、理系に当てはまらないことが多い。工学部では教授の推薦制度はなくなっている。最近では就職支援産業の発言力が強くなっている。早く落ち着いた就職活動ができるよう、文部科

学省に対しても強く言っていかなければならない。

皆さんにお願いがあります。今年工学部の就職率が悪いという数値が出た。その理由として就職調査の仕方が、変わったことがある。今までは先生方が確認してまとめて大学に報告していたが、今年は学生に自主的に報告してもらう方式にした。ところが、学生達はちゃんと報告しなかったみたいです。今年度から元に戻し、先生方からのちゃんとした数字の報告を出すことにします。学生達もきちんと報告して欲しい。

(再質問等)

共生応用化学科4年：理系、文系の違いで、10月から12月に変わったことによる弊害とは何か。(具体的に理系で)

織田学生部長：要望するときに、情報がない。先生方からは、国立大学理系の学生は、卒業研究が本格化するのは夏休み以降だから、4年生の4月から7月の間で内定が出て、それから卒業研究に臨めるのが理想と聞いているが、本当かどうかは学生の皆さんから聞いてみないとわからないので、様々な機会でも声を聞かせてほしい。

共生応用化学科4年：就職活動をしてみて、10月から12月に変わったことにより、就職活動の準備を始める。(社会について知ったり、自分がどんな仕事をしたいか等)考えたりする時間が無くなり、企業数が減ったり企業研究をする時間もなくなる等の現状をみると、(個人的には)なるべく早い段階から就職活動を意識して動けるのが良いのではないか。

織田学生部長：工学部の場合、3年から授業はびっしりあるかと思うが、支障はないか。実験の場合抜けられないが、文系の場合は、座学であり途中で抜けたとしても、カバーできる。現状を知り(文科省、経団連等)要望していくことが必要。声を聞いて反映したい。

(就職に関することについて)

建築学科4年：総合校舎A号館の就職相談に行くとパンフレットがある。

そこまで行く前段階として工学部で推薦がもらえますという情報がもらえると良いと思う。学科で就職資料室があるがパンフレットの質がわからない。大学の就職支援室は工学部から遠い。

北村工学部長：今年から工学部にハローワークのデスクを設けた。しかし予約がほとんどない。PR不足だと思う。是非利用して欲しい。

伊藤(智)副工学部長：OB、OG等つながりのあるところの利用も(相談することも)(就職担当教員に相談することで、道が開けることもある。(積極的に))

北村工学部長：OB、OG訪問が重要だと言われているが、これは文系のOB、OG訪

間であって、つながりが薄いので、いろんなところの訪問をした方がいい。一方工学部の場合には、会社の数は多くないが、学科や教員がそのOB、OGとつながりを持っており、そのつながりは強い。

活躍している先輩のいる会社は、千葉大生を採ってくれる。いい学生を送らないとつながりが途絶えてしまうこととなる。

工学部の先生、先輩の力は強いと思う。

情報画像学科1年：車椅子の学生の教室移動の「SA」をしていますが、総合校舎（普遍）は良いが、工学部（専門）の方はスロープが急だったり、段差があるので移動しづらいので考えて欲しい。

北村工学部長：具体的な要求を出してくれば対応します。

長澤理事（教育担当）：大学としても考えていきたい。学生の環境を整備していくことは大学としての役割なので是非、具体的に工学部や学生支援課の事務に要望してください。現在、何人「SA」の学生がいますか。

情報画像学科1年：現在15人ぐらいで「SA」しています。

長澤理事（教育担当）：全部工学部の学生ですか。

北村工学部長：授業の教室移動を手伝ってもらうので、同じ学科の学生でないとできないと思う。

（挨拶）

北村工学部長：学部長室の扉を開けています。お互いに情報交換をすることが大事なのでいつでも良いので来てください。

長澤理事（教育担当）：貴重な意見をありがとうございました。意見を言い合うことは大事なことです。大学本部に対してもご意見がありましたら出していたいただければと思います。